

4 指導の展開例

小学校 1・2 学年用 【P 9・10】

小学校 3・4 学年用 【P 11・12】

小学校 5・6 学年用 【P 13・14】

中 学 校 用 【P 15・16】

高 等 学 校 用 【P 17・18】

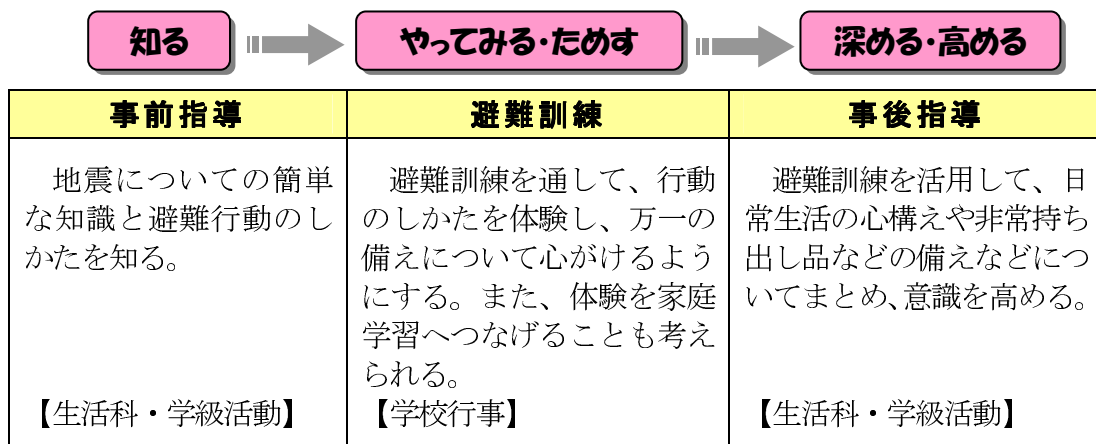
1 1・2年生の目標

- 学校の施設や通学路の様子などに関心を持ち、災害時の危険について理解し、安全な登下校や学校生活が送れるようにする。
- 地震での建物の倒壊、物の落下や転倒などの危険について理解し、災害に応じた行動の仕方を身に付け、安全に避難できるようにする。
- 災害時への備えとして、非常持ち出し品や避難場所等について考え、家族と話し合うなど防災意識を高めるようにする。

2 関連する教科等の指導内容

- 【生活科】 ● 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。
- 自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
- 【道徳】 ● 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整えわがままをしないで、規則正しい生活をする。
- 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。
- 【学級活動】 ● 健康で安全な生活態度の育成
- ・ 火災での火や煙の回り方、地震での物の落下や転倒、風水害等での洪水等の危険について、授業中や登下校中など様々な場面を取り上げる。
- 【学校行事】 ● 健康安全・体育的行事
- ・ 避難訓練において、災害に応じた行動の仕方を身に付け、安全に避難できるようにする。

3 学習の流れ



4 学習の展開例

<事前指導>

知る

『学校で大地震がおきたら、どうするの?』

- 教材1 「なぜ、地しんは起こるのかな?」
- 教材2 「ゆれの大きさによってつよさを分けています」

| 学習形態 | ○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導 | 備 考 |
|---|--|--|
| <p><展開例1> 一斉指導</p> | <p>● なぜ、地しんは起きるのだろう?</p> <p>○ 地震が起きるわけや行動のしかたについて理解するとともに、いつ地震が起きるか分からないこと、大きな地震が発生すると思うように動けないこと、地震の後にもいろいろな被害があることなどについて知る。</p> <p>◇ 地震の起こる原理（ばねの原理）やゆれの大きさなどの話から、興味・関心を高めるようにし、学校にいるときに起きる地震への対応を考えさせる。</p> | <p>* 教材1 「なぜ、地しんは起こるのかな?」(P19)を活用</p> <p>* 教材2 「ゆれの大きさによってつよさを分けています」(P19)を活用</p> <p>「地震のはなし」(神奈川県) 「自主防災ハンドブック」(神奈川県) 「地震を知ろう」(神奈川県温泉地学研究所)</p> |
| <p><展開例2> グループ学習 ☆ワークシートを活用して</p> | <p>● なにが、あぶないのかな?</p> <p>○ 学校にいるときに起きる地震について、場所ごとの行動や約束ごとについて考え、避難の仕方などを知る。</p> <p>◇ 子どもたちが活動することの多い場所を提示し、それぞれの場所の特性や危険について簡単に説明し、地震が起きた場合の行動や避難の仕方について理解をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>板書内容の例</p> </div> <p>□ カードで活動場所の提示 ⇒ 場所ごとの危険物等の説明 ⇒ 避難の仕方の確認</p> <p>□ グループごとに話し合う場所の選択 ⇒ 危険物などを調べ、記録 ⇒ 避難経路などをまとめ発表 (グループの役割分担：記録者・発表者など)</p> | <p>* ワークシート「もしものときにそなえて」の1～5の場所を示したカードを用意する。</p> <p>* 場所を示すカードを用意し、子どもたちの実態に応じてグループで分担して調べ学習ができるようにするとよい。</p> <p>* 調べ学習の場合は、模造紙などまとめ用の表を準備しておくとうい。</p> |
| <p><展開例3></p> | <p>● はっぴょうをきいて、はっけんしたことは?</p> <p>○ グループ毎に、調べた場所と危険なものについて、まとめたことを簡単に発表する。</p> <p>○ 発表を聞いて、地震発生直後の身の守り方、避難の方法等を具体的に考え、ワークシートの表にまとめる。</p> <p>◇ 確認として数人の児童に、場所ごとの身の守り方とやくそくごとについて発表させ、共有化し、これからの行動に生かせるようにさせる。</p> | <p>* グループの発表を聞く態度について指導する。</p> <p>* 個人学習として、家にいるときについても考えるようにさせ、家庭での過ごし方にもつなげたい。</p> |

※ 展開例1～3は、1単位時間の授業展開としての取り扱いではなく、児童の状況に応じた段階として学習できるように示してあります。

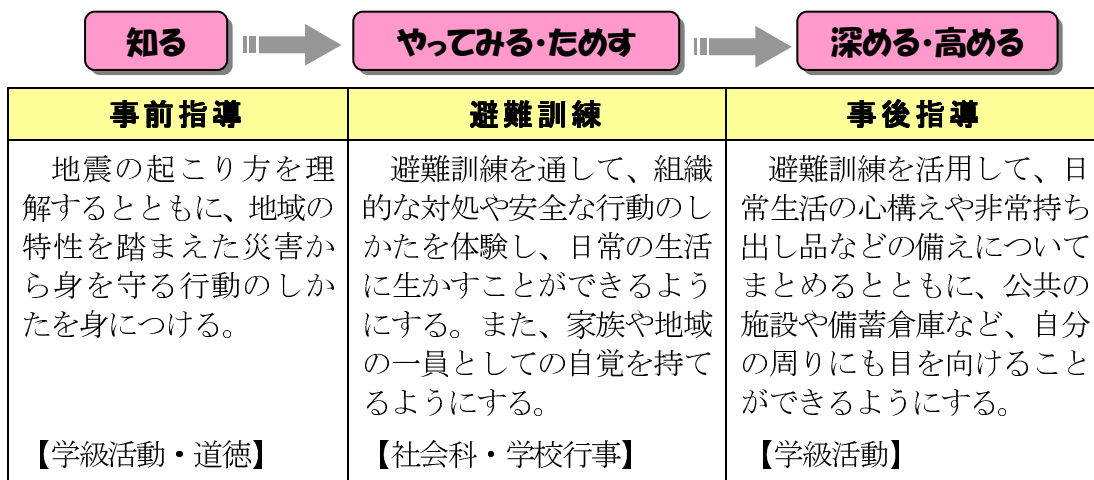
1 3・4年生の目標

- 地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について関心をもち、災害や事故防止のための日常の取組、緊急事態に対する備え、災害や事故発生時の組織的な対処などについて理解し、安全な行動ができるようにする。
- 地震の起こり方やそれに伴う火災などの危険について理解し、学校周辺や地域の特性を踏まえ災害に応じた避難や行動の仕方を身に付けるようにする。
- 災害時への備えとして、非常持ち出し品や避難場所等について考え、公共の施設や食糧の備蓄倉庫などに目を向けるなど、オリジナル防災マップ作成への手だてとする

2 関連する教科等の指導内容

- 【社会科】 ● 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。
- 例えば、地域の消防署を見学し、そこにある様々な施設・設備を観察したり、そこで働く人々から聞き取り調査を行ったりして、災害や事故防止のための日常の取組、緊急事態に対する備え、災害や事故発生時の組織的な対処などについて調べることが考えられる。また、消火栓やガードレール、水防倉庫、飲料水や食糧の備蓄倉庫、緊急避難場所などの施設・設備の働きなどを調査し、地域における日ごろの備えを具体的に調べることも考えられる。
- 【道徳】 ● 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。
- 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
- 【学級活動】 ● 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
- ・ 火災の原因と危険、地震の起こり方や危険及び風水害等の危険について、学校周辺や地域の特性、実態を踏まえて取り上げ、安全に行動する態度を育てる。
- 【学校行事】 ● 健康安全・体育的行事
- ・ 避難訓練において、様々な自然災害の危険と災害時の避難の方法について理解し、安全に行動できるようにする。

3 学習の流れ



4 学習の展開例

<事後指導>

深める・高める

『いざというときの備えは?』

○ 教材4「地震に備えて、どんなことをしておくといよいですか？」
(避難訓練の体験を通して、家庭へのアプローチを考えた展開例)

| 学習形態 | ○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導 | 備 考 |
|---|--|---|
| <p><展開例1> 一斉指導 (グループ学習)</p> | <p>● 大地震に備えて、日常的な備えを考えてみよう</p> <p>○ 大地震が起きた場合を予想し、どのようなものが 必要になるか考え、教材「ふだんから備えておこう」 (P20)のチェック欄に記入する。</p> <p>◇ 地震などの自然災害に備えて、どんなものが必要 なのかを考えさせたり、避難場所や備蓄倉庫などを 確認させたりするとともに、家族で連絡を取り合う 方法などをそれぞれ考えるようにさせる。 また、「171」の具体的なメッセージを作って 発表させる。</p> | <p>* 社会科との関連で調べ方や まとめ方を工夫するよう指導 するとよい。</p> <p>* ワークシート「いざという ときの備えは?」の「かぞく で、はなしあってみましょ う!」を活用する。</p> |
| <p><展開例2> (個人学習)</p> | <p>● 家の人と話し合ってみよう!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問例 いざというときの備えとして、自分の家の中や避難 場所など、家族で話し合い、心がけておくことはなん だろう。</p> </div> <p>★ 調べる</p> <p>○ 自分の家の備えを、家族の人に協力してもらいな がら調べてまとめる。 また、登下校のときに避難場所や備蓄倉庫につい て調べておく。</p> <p>★ 考える(工夫する)</p> <p>◇ 家族会議を開いてもらい、家族みんなの避難場所 や連絡方法などについて考えるようにさせる。 また、けがをしたときの応急手当についても話し 合い、家庭で救急薬品を準備するようにさせたい。</p> | <p>* 教材4「地しんに備えて、 どんなことをしておくといよ いですか?」を活用する。</p> <p>* ワークシート【日頃の備え : 学校での過ごし方】への記 入。</p> <p>* ワークシート【日頃の備え: 家庭での過ごし方】への記入。</p> <p>* 簡単な応急手当の方法につ いて、参考文献等を用意して おくとよい。</p> |
| <p><展開例3> (グループ学習)</p> | <p>● どんな物が必要な?すぐにもって出るにはどうする の?</p> <p>★ まとめる</p> <p>○ 日常の備えについて各自でまとめ、何人かが自分 の考えを発表する。</p> <p>◇ 日頃の備えとともに、避難場所や備蓄倉庫など、 地域へ意識を向けることで、防災マップづくりや地 域の防災活動へ参加していく意欲付けにつなげて いきたい。</p> | <p>* まとめとして、発表会を開 いてもよい。</p> |

※ 展開例1～3は、1単位時間の授業展開としての取り扱いではなく、児童の状況に応じた段階として
学習できるように示してあります。

1 5・6年生の目標

- わが国の国土や県内の地形の様子などについて理解できるようにし、地震や台風、津波、火山噴火などの災害場面における避難行動について知り、安全な行動の仕方について理解を深めるとともに、下級生の安全に気を配ったり、初期消火を行ったり、大人への通報をするなど、二次災害を防ぐ態度や行動がとれるようにする。
- けがの防止について理解するとともに、止血などの簡単な応急手当や家庭での災害への日常の備えとして非常持ち出し品や避難場所等について考えることが理解できるようにする。
- 通学路を中心とした地域における災害時の被害を想定したオリジナル防災マップを作成できるようにする。

2 防災教育に関連する教科等及び指導内容

- 【社会科】 ● 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。
- 【理科】 ● 地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるようにする。
● 土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えをもつことができるようにする。
- 【体育科】 ● けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。
- 【道徳】 ● 生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
● 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする。
- 【学級活動】 ● 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
 - ・ 災害時に自分自身が安全に避難するとともに、下級生の安全に気を配ったり、初期消火や大人への通報の仕方など、二次災害を防ぐ態度や行動の仕方について取り上げる。また、止血などの簡単な応急手当や家庭での災害への日常の備えについて理解できるようにする。
- 【学校行事】 ● 健康安全・体育的行事
 - ・ 避難訓練において、災害の種類程度等に応じた安全な避難行動ができるとともに、通報や初期消火など二次災害の防止などについて体験的に理解できるようにする。

3 学習の流れ



| 事前指導 | 避難訓練 | 事後指導 |
|--|--|---|
| 地震などの災害から身を守る行動の仕方を知り、下級生への安全と二次災害を防ぐ行動がとれるようにする。 【学級活動・道徳】 | 事前の防災教育や避難訓練を通して、学校や家族・地域の一員としての自覚を持ち、安全な行動の仕方を実践することができる。 【社会科・学校行事】 | 避難訓練等の事後指導として、通学路の安全を含めたオリジナル防災マップを作成し、児童自ら災害の危険から回避できる力を養う。 【学級活動・総合学習】 |

4 学習の展開例

＜事後指導＞

深める・高める

『オリジナル防災マップをつくろう！』

(防災訓練の事後指導として地域の危険を考える展開例)

| 学習形態 | ○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導 | 備 考 |
|--|---|--|
| <p>＜展開例1＞ グループ学習または、 個人学習</p> <p>グループワーク</p> | <p>● オリジナル防災マップをつくろう！</p> <p>◇ 板書内容の例 【オリジナル防災マップ作成の手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅から学校までの通学路を地図上で確認する。 ・ 建物の倒壊や土砂崩れ、津波などの危険はないか、建物や道路の地図記号の確認をする。 ・ 危険と思われる場所に、マーカーで印をつける。 <p>1 考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既存の地図に、あらかじめ危険箇所と思われる場所をマークする。また、大地震発生時の災害なのか、大地震発生後の災害（二次災害）なのかを予想する。 <p>◇ 危険箇所をマークしたら、グループ内で理由を述べるなどして、意見を出し合い、危険箇所ごとの内容を確認させる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> * 学校周辺の拡大地図があれば、グループ学習で活用する。なければ、個人学習として自宅周辺の既存の地図を準備させる。 * 危険物や災害の種類ごとで色分けするよう示すと作業が効率的になる。 * いろいろな危険箇所が出された場合でも、否定せず予想しなかったすばらしい考えであることと捉えさせたい。 * お互いの意見は、尊重し合う雰囲気作りをする。 |
| <p>＜展開例2＞ 個人学習</p> | <p>● 自分の通学路を確認しよう！</p> <p>2 作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで話し合った内容を踏まえ、家から学校までの通学路を中心に、教材『私の通学路は、ここが危険』へ記入する。 <p>◇ 自動販売機や電柱等がたおれてくる、物が落ちてくる、塀の倒壊、山崩れ、津波など予想される災害について、区分させたり、色分けさせたりしておく地図上、もしくは文章として記入させやすい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> * ワークシート「オリジナル防災マップをつくろう！」の「私の通学路は、ここが危険」を活用する。 * 個人が地図を持っていれば、毎日の通学路をチェックし、危険箇所の色分け作業を宿題等にしておくと効果がある。 |
| <p>＜展開例3＞ グループ学習</p> | <p>● みんなの考えた危険をグループ内で発表しよう！</p> <p>3 発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作成したオリジナル防災マップについて発表し、危険を回避する方法などのアイデアや行動等を報告し合う。 <p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ内で話し合った内容から、自分の足りなかった場所等の確認をする。 ○ 訂正する箇所や追加する危険箇所について、書き出す。 ○ 各グループの記録者により簡単に報告。（共有化） <p>◇ 集団登下校の班があれば、下級生を安全に保護しながら、どのような行動をとったらよいか話し合わせる。 また、自然災害については予想をはるかに超えた被害に遭うこともあるが、落ち着いた正しい行動により被害を最小限に抑えることができること（二次災害への対処）を、児童に理解させ、望ましい行動へとつなげていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> * 発表はグループの中で行うが、司会・記録・協議時間等を決めておく。 * グループで話し合った内容と自分の考えから、各自の通学路における危険箇所を再確認させる。 * まとめとして、教材資料の『私の通学路は、ここが危険』（P29）を再確認させ、加除訂正をさせる。 * 危険回避は、危険予測と二次災害からの避難行動が大切であることに気付かせ、ワークシート「災害から身を守るために、これから気をつけることは？」に記入させる。 |

※ 展開例1～3は、1単位時間の授業展開としての取り扱いではなく、児童の状況に応じた段階として学習できるように示してあります。

1 中学校の目標

- 地震に伴う土地の変化の様子など、地震発生のメカニズムと危険性について理解するとともに、沈着・冷静・迅速に安全な行動がとれるようにする。
- 大地震発生後の被災状況を把握させるとともに、中学生としてできる地域での防災活動や防災訓練等に積極的に参加する意識を高め、自他の生命を尊重する態度を養う。
- 通学路を中心とした地域における地震発生時に起こりやすい危険箇所に気付き、どのような対策を立てればよいかなど防災マップを活用して、具体的な行動化に結びつく力を身に付ける。

2 防災教育に関連する教科等及び指導内容

- 【社会科】 ● 世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。
- 【理科】 ● 大地の活動の様子や身近な岩石、地層、地形などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解させ、大地の変化についての認識を深める。
● 自然がもたらす恵みと災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。
- 【保健体育科】 ● 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。
- 【道徳】 ● 生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
● 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。
- 【学級活動】 ● 心身ともに健康で安全な生活態度の育成
・ 災害時の自分自身の安全に加えて、災害時の被害者の救出や地震後の火災発生防止など二次災害を防ぎ、家庭や地域の人々の安全を守るために必要な事柄を取り上げ、理解できるようにする。また、家庭での災害への日常の備えにあたって、積極的な役割が果たせるようにする。
- 【学校行事】 ● 健康安全・体育的行事
・ 地域の関係機関と連携した実践的な避難訓練の実施や地域と一体となった防災訓練の実施等により、進んで防災対応能力を身に付けようとする態度を育てる。

3 学習の流れ



| 事前指導 | 避難訓練 | 事後指導 |
|---|--|--|
| 防災教育並びに避難訓練等の事前指導として、地震発生のメカニズムや危険性について理解するとともに、安全な行動の仕方等について学習する。 【学級活動・理科】 | 避難訓練を通して、家族の一員としての自覚を促すとともに、災害時における安全な行動の仕方や日常の取組から、中学生として何ができるかを考えることができる。 【学級活動・学校行事】 | 避難訓練等の事後指導として、通学路の安全を含めた防災マップづくりを通して、自分の住んでいる地域へ目を向けるなど、災害時における望ましい行動の在り方について学習する。 【社会科・学級活動】 |

4 学習の展開例

<避難訓練の一環>

やってみる・ためす

『日ごろの防災意識を高めよう!』

(防災訓練の一環として、家庭へのアプローチを考えた展開例)

| 学習形態 | ○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導 | 備 考 |
|---|--|--|
| <p><展開例1> グループ学習</p> | <p>1 今、地震が起きたとしたら、家族とどのように連絡を取るのだろうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 在校中の大地震発生時に家族は何をしているのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに意見を出し合う。(クラスの雰囲気によっては、ワークシートに記入させてもよい。) ◇ 非常時の電話連絡については、かなり困難であることを理解させる。 <p>2 学校以外で大地震が発生した場合はどうすればよいのだろうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校中、外出中の発生時の動きについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・危険物から身を守ること ・家族や学校への連絡はどうしたらよいのかを考えさせる。 ◇ 被災地では、どのようなことが課題になるのかなど、被災者となった立場で真剣に考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> * 自分の家族だけでなく、考えられることを出し合うことにより、幅広くとらえることができる。 * 居場所やその災害状況を予測しながら話し合いを深めていく。 * ワークシート「我が家の防災会議」の例を読み上げ、話し合う内容を確認する。 * 県外の親戚に連絡を入れるなどの工夫があることに気付かせる。 |
| <p><展開例2> グループワーク</p> | <p>3 日ごろの準備品には何があるだろうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いざとなったら、何を持って避難するのか考え、ワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の避難所を知る。 ・避難のときの非常持ち出しについて考えさせる。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>家庭での話し合いや備えについてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「我が家の防災会議」の開催をキーワードに、いつ・どのように実施できるか考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> * グループで話し合い、各自のワークシートに記入する。 * グループでの話し合いを基に、家庭へのアプローチを考えさせる。 |
| <p><展開例3> 個人学習 (家庭学習)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 家族全員で話し合うことが大切であり、役割や家中の安全点検などを実施する意欲をもたせる。 | <ul style="list-style-type: none"> * 家族の一員としての自覚を持ち、自分のできることを考えさせる。 |
| <p><展開例4> グループ学習</p> | <p>4 まわりを見て、あなたにできることは何だろうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに、家族で話し合った内容について情報交換を行う。 ◇ 家族との話し合いができなかった生徒には、自分の考えを述べさせるようにし、全員が参加できる体制づくりを確認する。 ◇ 本時の学習から、自分ができることについて考えさせ、家庭や地域の一員であることに気付かせたい。 | <ul style="list-style-type: none"> * 家庭学習の内容を事前に集めておき、教師が家庭学習の状況把握しておく。 * ワークシート「我が家の防災会議」の「私のできること、しなくてはいけないこと」を活用する。 |

※ 展開例1～4は、1単位時間の授業展開としての取り扱いではなく、生徒の状況に応じた段階として学習できるように示してあります。

1 高等学校の目標

- 自然災害の仕組みとその危険性について理解するとともに、自らの安全確保はもとより、友人や家族、地域社会の人々の安全にも貢献する大切さについて理解する。
- 災害時に予想される被災状況について理解し、自他の生命を尊重する態度を養うとともに、心肺蘇生法など、疾病や傷害が発生した場合の応急手当の技能を高め、適切な手当が実践できるようにする。
- 安全な社会づくりの理解を深め、地域社会の安全に関する活動や災害時のボランティア活動等について積極的に参加できるようにする。

2 防災教育に関連する教科等及び指導内容

- 【公民科】 ● 人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間のかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。
- 【理科】 ● 火山活動と地震の発生の仕組みについて理解する。
● 日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて考察する。
- 【保健体育科】 ● 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生法等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。
- 【ホームルーム活動】 ● 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立
 - ・ 自ら安全に配慮するとともに、危険を予測できる力や危険を回避的に行動できる力を高めていくよう日ごろからの注意の喚起や指導が必要である。また、日ごろの備えを含め自然災害等に対する心構えや適切な行動がとれる力を育てることも大切である。さらに、高校生としての自覚に立って自己の安全を確保するのみならず、身の回りの人の安全を確保する態度をはぐくむことが重要である。
- 【学校行事】 ● 健康安全・体育的行事
 - ・ 地域の関係機関と連携した実践的な避難訓練の実施や地域と一体となった防災訓練の実施等により、進んで防災対応能力を身に付けようとする態度を育てる。

3 学習の流れ



| 事前指導 | 避難訓練 | 事後指導 |
|--|--|--|
| 災害発生時の的確な判断に基づく安全な行動の仕方を理解するとともに、災害ボランティアの活動内容を理解する。 【学級活動】 | 避難訓練を通して、地域社会の一員としての自覚をもち、安全に関する適切な行動の仕方や応急手当の技能を身に付ける。 【学級活動・学校行事】 | 避難訓練等の事後指導として、自他の生命を尊重する態度及び、地域社会に貢献する活動に積極的に参加する態度を養う。 【学級活動・道徳】 |

4 学習の展開例

<避難訓練の一環>

やってみる・ためす

『地域社会への貢献について考えよう!』

(高校生のボランティアについて考え、地域の防災訓練へ参加する展開例)

| 学習形態 | ○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導 | 備 考 |
|---------------------------------|--|---|
| <p><展開例1> グループ学習</p> | <p>● 地震発生の仕組みと安全な行動を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地震発生の仕組みを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・火山活動と地震の発生の仕組みについて、資料を活用しながらプレートの運動と関連付けて理解する。 ◇ 理科の教科書や資料を使って解説する。 ○ 地震発生時の安全な行動について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校内、登下校時、街中等、場面ごとにグループで危険な場面とそのときの安全な行動について意見を出し合う。 ◇ 具体的な場面を設定し、意見が出やすいようにする。 <p>● 災害ボランティアで何ができるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 被災地では何を必要としているのか、ボランティアとして何ができるかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにブレインストーミングでいろいろなボランティアの内容を出し合う。 ◇ ブレインストーミングの約束を徹底し、意見が出やすい環境をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> * 理科の学習内容と関連付けて指導する。〔地学基礎 (2) 変動する地球 ア活動する地球 (イ) 火山活動と地震〕 * 視聴覚教材を活用する。 * ワークシート「地域社会に貢献できることを考えよう!」を使い、出し合った意見をまとめさせる。 * ブレインストーミングの約束 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ol style="list-style-type: none"> ① 批判をしない ② 奔放なアイデアを歓迎する ③ 質より量を重視する ④ 他のアイデアを修正、改善、発展、結合する </div> |
| <p><展開例2> グループワーク</p> | <p>● 高校生としてできる災害ボランティアには、どんなことがあるだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの事例等から、高校生が参加したボランティアについて調べる。 <li style="text-align: center;">↓ ○ 調べた災害ボランティアについて発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・募金活動、励ましのメッセージ、被災地で可能な作業、炊き出しなど。 ◇ 他グループの様々なボランティア内容を知り、自分自身ができることについて考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> * 時間が確保できない場合は、家庭学習として調べさせる。 * 状況に応じて、関連文献、インターネット等を提示する。 * 資料としてまとめ、紙上発表とすることもできる。 |
| <p><展開例3> 体験学習</p> | <p>● 大規模地震を想定した地域の防災訓練への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の防災組織の指導者の指示に従って訓練活動を行う。 <li style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>例] 避難誘導訓練 救出救護訓練 起震車体験 消火訓練 煙体験訓練 炊き出し訓練 防災資材点検 等</p> ○ 訓練活動の評価活動 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の指導者からの活動に対する講評 ・活動を振り返り、課題を持つとともに、実践に向けて解決方法を考える。 ◇ 教員が巡回して、生徒の活動を把握し、状況に応じて指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> * 高校生としての自覚をもち、積極的に活動に参加するよう指導する。(事前指導で徹底する) * 防災訓練の「評価票」を事前に配布し、具体的な評価内容を明確にする。 |

※ 展開例1～3は、1単位時間の授業展開としての取り扱いではなく、生徒の状況に応じた段階として学習できるように示してあります。